



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

12日

ドル円は米長期金利が低下に転じると108.438円まで下げたものの、米金利が再び上昇したことで下値も限られた。

13日

ドル円について市場では「春節の休暇を前にアジア系ファンドから売りが持ち込まれた」との指摘があり、株価の下落とともに107.411円まで売り込まれた。

14日

ドル円は日経平均株価の失速とともに売りが先行。昨年9月8日安値の107.323円の下抜けを狙った仕掛け的な売りも持ち込まれた。全般ドル安も進み106.723円まで弱含んだ。

15日

ドル円は朝方から仕掛け的な売りに押された。麻生副総理兼財務・金融相が「今の状況は特別に介入が必要なほどの急激な円高ではない」と述べたことも売り材料に。日経新聞が「日銀副総裁にリフレ派の若田部氏検討」と報じるとショートカバーが進んだが、戻りは鈍く106.036円まで下落した。

16日

ドル円は海外短期筋の仕掛け的な売りで節目の106.00円を下抜けると、ストップロスを断続的に誘発。2016年11月10日以来の安値となる105.55円まで下げ足を速めた。その後、米国の3連休を前に買い戻しが進み106.398円まで持ち直した。

総括

前週のドル円は軟調。週明けは108.70円を挟んだもみ合いとなったが、翌13日は売りが優勢となった。市場では「春節の休暇を前にアジア系ファンドから売りが持ち込まれた」との指摘があり、日経平均株価の急落とともに107.411円まで下げ足を速めた。14日も株安を手掛かりに仕掛け的な売りが進んだほか、欧州通貨や資源国通貨など幅広い通貨に対してドル売りが優勢となった影響を受けて106.723円まで下落。15日には麻生財務・金融相が「今の状況は特別に介入が必要なほどの急激な円高ではない」と述べたことが嫌気されるなど戻りの鈍い値動きが続き、一時106.036円まで下押しした。翌16日には海外短期筋から仕掛け的な売りが持ち込まれ、節目の106.00円を下抜けると目先のストップロスを巻き込んで105.55円と2016年11月10日以来の安値まで下げ幅を広げた。一方で、その後は持ち高調整のドル買いが進んだ流れに沿って106.398円まで持ち直した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
14日	08:50	水	JPY	GDP、速報値	年率換算	10-12月期	2.5%	2.2%	1.0%	0.5%
14日	16:00	水	DEM	GDP、速報値	前期比	10-12月期	0.8%		0.6%	0.6%
14日	19:00	水	EUR	GDP、改定値	前期比	10-12月期	0.6%		0.6%	0.6%
14日	22:30	水	USD	CPIコア指数	前月比	1月	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%
14日	22:30	水	USD	小売売上高	前月比	1月	0.4%	0.0%	0.2%	-0.3%
15日	22:30	木	USD	PPI	前月比	1月	-0.1%	0.0%	0.4%	0.4%
15日	22:30	木	USD	ニューヨーク連銀製造業景気指数	*	2月	17.7		18.0	13.1

一言コメント・・・注目の米CPIは市場予想を上回る結果となり、指標発表直後にはドル買いが進みました。もっとも、同時に発表された米小売売上高は予想より弱い結果となったため、一巡後は株価の失速とともにドル売りに押されました。

先週の注目された要人発言

12日19:29 プリハ英中銀金融政策委員会(MPC)委員「英経済は少しの金利上昇に対する準備が整っている」
 13日1:42 マカファーティ英中銀金融政策委員会(MPC)委員「金利は段階的に引き上げるべき」「より早く金利は引き上げられるだろう」
 13日18:53 浅川雅嗣財務官「(円高について)投機的な動きがないか注視する」
 13日22:03 メスター米クリーブランド連銀総裁「今年と来年はさらなる利上げが必要」「今後1-2年でインフレは徐々に2%に上昇する」「最近の市場動向はリスク姿勢を阻害しない」
 14日0:01 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長「金融安定へのいかなるリスクにも警戒を続ける」
 15日10:26 麻生太郎副総理兼財務・金融相「今の状況は特別に介入が必要なほどの急激な円高ではない」
 15日10:32 麻生太郎副総理兼財務・金融相「(為替について)今の段階でただちに何かを考えているわけではない」
 16日7:38 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁「次の政策金利の動きは引き上げの可能性がさらに大きい」「ある時点で金融刺激策を縮小することが適切」
 16日7:41 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁「短期的に金融政策を調整する強い兆候は見られない」
 16日8:47 麻生太郎副総理兼財務・金融相「為替の無秩序な動きは金融市場に影響を与える」「為替の安定は重要であり、必要な場合に対応するという政府方針に変わりない」「為替市場の動向に緊張感を持って対応」
 16日10:23 黒田東彦日銀総裁「強力な緩和を粘り強く続ける」「出口の対応を示していく局面にはない」
 16日17:02 浅川雅嗣財務官「為替市場の過度な変動は経済にとってよくない」「ファンダメンタルが割には一方的に偏っている」「為替は安定的に推移するのが望ましい」「緊張感を持って注視する」

一言コメント・・・麻生財務相の発言が円高容認と捉えられたため、海外勢を中心に一時円買いが強まる場面が見られました。もっとも、その後は政府当局者から火消しと見られる発言が相次いでいます。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
21日	24:00	水	USD	中古住宅販売件数	年率換算件数	1月	557万件		561万件
21日	28:00	水	USD	FOMC議事要旨	*	*	*	*	*
22日	18:00	木	DEM	Ifo企業景況感指数	*	2月	117.6		117.0
22日	18:30	木	GBP	GDP改定値	前期比	10-12月期	0.5%		0.5%
22日	21:30	木	EUR	ECB理事会議事要旨	*	*	*	*	*
23日	16:00	金	DEM	GDP改定値	前期比	10-12月期	0.6%		0.6%
23日	22:30	金	CAD	CPI	前月比	1月	-0.4%		0.5%

今週の注目は・・・欧米金融政策議事要旨

GIweekly今週のマーケットポイント [限定版]は

『ひまわりFX WEB/PRO』にログイン後
「マイページ」にてご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - － 荻野金男
 - － 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - － 今井雅人
 - － エマージングウオッチ

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。